

#### 4) 地域コミュニティの活性化について

自治会加入率や自治会そのものが年々減少する中、現在、「地域コミュニティの活性化に向けた条例制定」に向け、取り組まれています。計画では、令和6年度上半期には素案を提示し、地域団体等から意見を聴くことになっています。これは、自治連合会から市長宛に要望された事案であり、また、まちづくりの観点からも、重要な条例となる為、作成段階において、大枠の方向性や内容を開示し、広く意見を求めるよう、要望しました。

現在、様々な分野で活動されている団体が存在する中、今こそ、有機的に連携させる仕組み作りが必要と考えます。地域コミュニティの活性化に向け、是非、他市での先進事例も参考にしながら、更に一步踏み込んだ取り組みを要望しました。

##### 【市の見解】

市民の皆さんや団体の皆さんにご意見をお聞きする場合は、やはり「たたき台」を提示する必要があると考えていますので、まずは、条例素案を作成してからご意見をお聞きして参りたいと考えています。また、条例素案はあくまでも「たたき台」として提示するものですので、修正は可能です。地域団体等から有用なご意見を頂ければ、条例案に反映させて参ります。



#### 5) 災害対策の充実・強化について

現在、地域防災計画の全面改訂に着手されていますが、防災の視点、或いは、鳥飼まちづくりの観点からも、「高台まちづくり」の方針は、上位概念にあたり、非常に重要な位置付けとなります。今一度、深く検討し、本市にとって最適な高台まちづくりを見出すよう、要望しました。

また、自治会独自で進められた地域版防災マップにおいて、これまで相当な労力を掛けて緊急一時避難のあり方や、緊急避難所マップなども整理されて来ましたが、しかしながら、作成された当初と現在では、水害リスクの前提が変わっている為、被害想定にあった内容に見直す必要があると考えます。

鳥飼北小学校校区では、地域での広域避難の取り組みについて、検討が開始されたとお聞きしております。素晴らしい取り組みかと思しますので、是非、市全域に反映するよう、要望しました。

##### 【市の見解】

高台まちづくりに関しては、先進地である東京都江戸川区や高台まちづくりの研究を行っている公益財団法人リバーフロント研究所へお伺いし、意見交換を行っており本市にとって最適な高台まちづくりの方向性を整理して参ります。また、既存の地域版防災マップは、広域避難を前提として見直す必要がある為、今後、地域と連携しながら順次、更新・作成して参りたいと考えております。



#### 6) 鳥飼地域のまちづくりについて

鳥飼まちづくりグランドデザインが完成して以降、エリア毎の説明会やワークショップも展開されていますが、先行して着手されている河川防災ステーションと河川敷の一体的な活用については、市がイニシアチブを取って進めるべきと考えます。

特に河川敷の活用に関しては、具体的な絵を描くべきと考えます。

河川敷で多くの方に賑わって頂く為には、新設されたアクセス坂路の河川敷側にも新たな駐車場が必要であり、これを機に河川敷の樹木を伐採し、枚方地区の河川公園に様な景観も必要と考えます。

是非、市民の声を具現化すべく、国への強い働き掛けを要望しました。

私は、2026年に実施される鳥飼小学校と鳥飼東小学校の統合や、2030年を目処に完成予定の河川防災ステーションなど、具現化される事案とまちづくり全体を紐付けし、スケジュールリングすべきと考えます。いつまでに誰が何をどうするのか？5W1Hの視点で複合的に取り組むよう、要望しました。

##### 【市の見解】

鳥飼まちづくりグランドデザインの進め方については、まずグランドデザインに記載している将来予想を地域の皆様と共有し、その将来予想を実現する為に必要な対策を、地域の皆様と協働して実施して行くこととしています。説明会でエリアの将来予想の共有が出来たところから、順次ワークショップを開催し、個別具体的な対策について議論させて頂き、3~4年を目途に、具体的な取り組みを住民の皆様と一緒に実施したいと考えております。

